

南海トラフ大地震災害支援シミュレーション
「コロナ禍の避難・支援を過去の災害から考察」ZOOM会議
第3回 2021.06.22

南風舎/和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター
林 美由貴

自己紹介

林 美由貴（はやしみゆき / おりん）

2002年度 くりこま高原自然学校 実習生
2003～07年 大阪YMCA 専任講師
2007年 キープ協会 環境教育事業部 レンジャー

• 自然環境教育企画「南風舎」

和歌山県キャンプ協会 理事（CD1級）、日本野外教育学会会員、南紀熊野ジオパークガイド
和歌山市立青少年国際交流センターでコンサルティング（受託業務）

防災関連の企画/指導等

2015年～2018年「楽しく学ぼう防災キャンプ」（1泊2日・小中学生対象）子どもゆめ基金助成事業

2017年～2019年「親子防災デイキャンプ」（年間1～3回開催）和歌山リビング新聞社主催

その他、地区社協、青年会議所、企業、大学などで 講演・ワークショップ

• 和歌山大学 災害科学・レジリエンス共創センター 臨時職員（フルタイム）

災害ボランティア拠点の常設



大規模災害とわたし

災害ボランティア活動・中間支援活動 経験

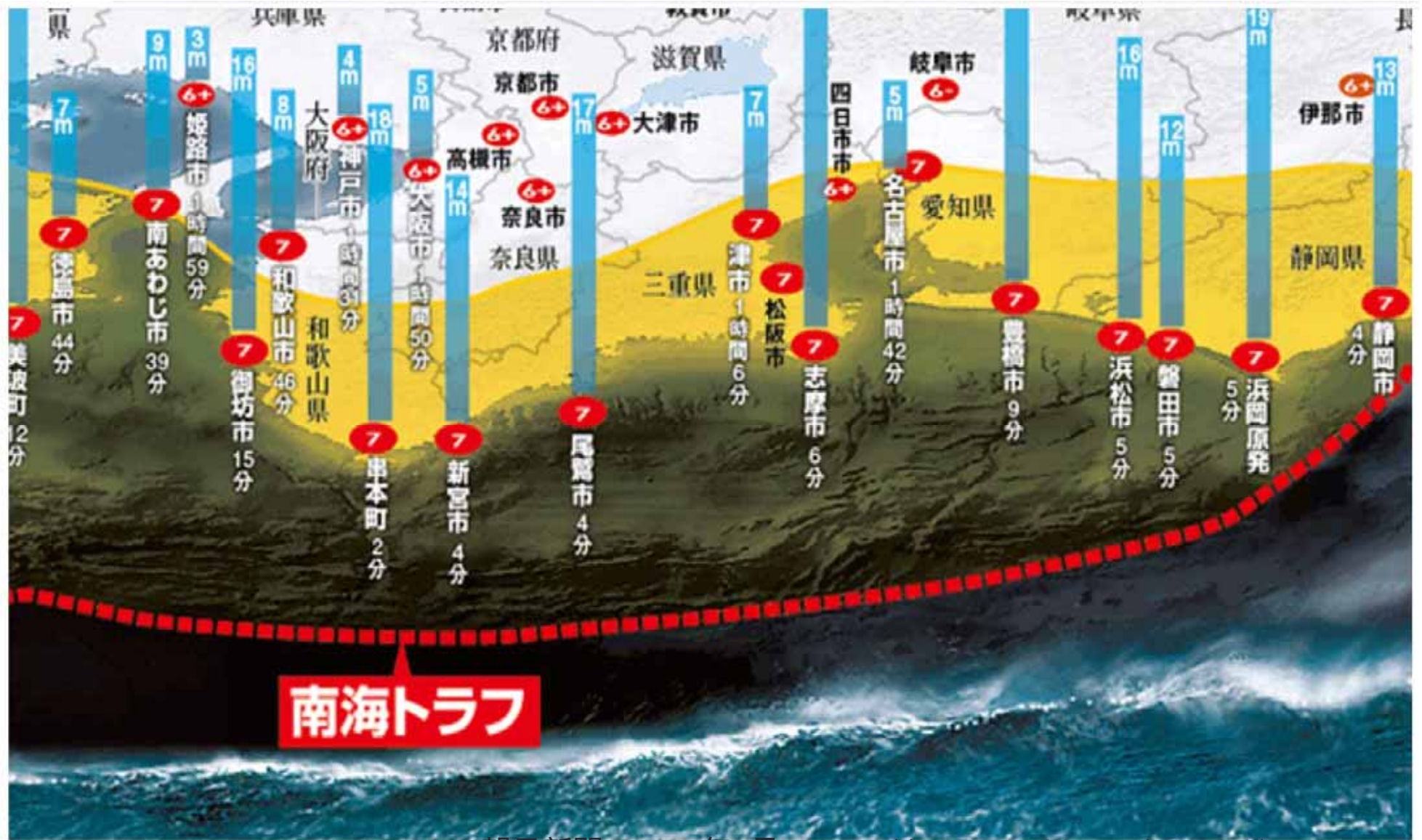
- 1995年 阪神淡路大震災 損害保険会社勤務時代（損害調査業務） ボランティア経験ほぼ無し
和歌山市は震度4~5弱 我が家の壁にヒビ4ヶ所
- 2008年6月 岩手宮城内陸地震 顔の見える方々が被害に!（8月に1週間 自然学校のお手伝い）
- 2011~12年 東日本大震災 和歌山大学ボランティアバス引率 陸前高田 計3回
- 2011年9月 紀伊半島大水害 RQ登米に申込みをしていたが急きょキャンセル
和歌山大学生有志と共に熊野川町VC開設初期 のべ9日間
- 2014年 広島市豪雨災害 広島市安佐北区 5日間（RQ広島）
- 2016年 熊本地震 南阿蘇・益城町にてのべ6日間（RQ九州 / 五ヶ瀬自然学校）
- 2018年 西日本豪雨災害 広島市安芸区矢野サテライト 5日間（RQ広島）
- 2019年 台風19号による洪水 和歌山大学より長野市千曲川流域にてボランティア調査
- 2020年 熊本へ仮設住宅へのキッチン用品寄附に 4tロングワイド箱トラックを運転して

わたしを動かすもの

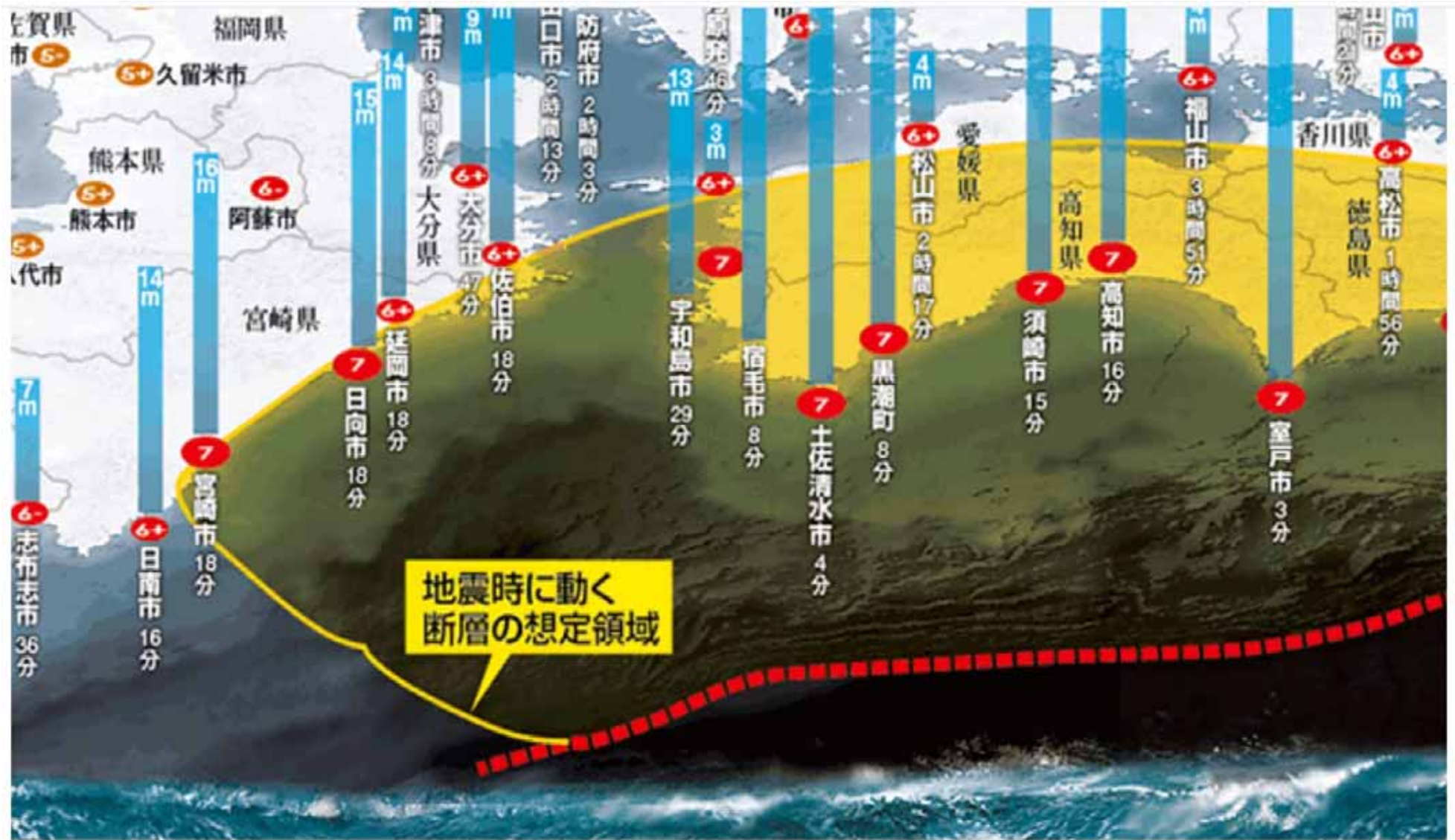
- 高尚な奉仕の精神はありません
- 居心地の悪さ（自分だけ恵まれて、いわれのない不公平, 依怙臆戻）
- 明日は我が身、学ばせていただきます
南海トラフ地震 = 他人事じゃない

和歌山県と大規模災害

- 本州最南端、台風銀座、紀伊山地は年に366日雨が降る
- 安政の南海地震 (1854年) の逸話 稲むらの火 / 濱口梧陵さん 私財を投じ築堤
- 昭和東南海地震 (1944年) の経験 M7.9 震源:紀伊半島南東部 津波:5m
- 昭和南海地震 (1946年) の経験 M8.0 震源:紀伊半島南方沖 津波:6.5m
- 南海トラフ地震による津波到達予測時間 全国1位 (1m・2分 (最短30秒の説も))
- 南海トラフ地震による推定死者数 全国2位



朝日新聞 (2015年9月) http://www.asahi.com/special/nankai_trough/



朝日新聞 (2015年9月) http://www.asahi.com/special/nankai_trough/

和歌山県と大規模災害

- 本州最南端、台風銀座、紀伊山地は年に366日雨が降る
- 安政の南海地震（1854年）の逸話 稲むらの火 / 濱口梧陵さん 私財を投じ築堤
- 昭和東南海地震（1944年）の経験 M7.9 震源:紀伊半島南東部 津波:5m
- 昭和南海地震（1946年）の経験 M8.0 震源:紀伊半島南方沖 津波:6.5m
- 南海トラフ地震による推定死者数 全国2位
- 南海トラフ地震による津波到達予測時間 全国1位（1m・2分（最短30秒の説も））

【課題】

県南部・沿岸部と、北部・内陸部とで、危機意識の差がかなり大きい（One Naganoを見習えるか）

和歌山県災害ボランティアセンター

平成20年（2008年）10月10日より常設（全国4番目）

顔の見える関係・パートナーシップを促進

平常時の活動

- 人材育成、コーディネーター養成
（防災学習・研修・訓練の実施）
- ボランティア活動支援・環境整備
（資機材等の整備）
- ネットワークづくり
（協力団体との協議・トレーニングによる共働の深化、ボランティア登録等による相互支援関係の強化）
- 啓発・調査研究
（防災とボランティア活動情報の収集と提供） など



一日も早い生活再建・地域復興をめざして
平常時の活動・備えを活かす

災害時の活動

- 発災時における現地状況の把握
- 現地災害ボランティアセンター支援
（支援人材・チームの派遣
センター立ち上げ・運営
ニーズ把握、ボランティア募集・受入
支援プログラム開発への協力
県内外関係機関・支援団体との連絡調整
各種情報の収集及び発信） など
- 現地が求める「ひと・もの・おかね・情報」等の調整

センターの役割や機能の整備・強化を図り、ボランティアの力を地域の力につなぎます。

和歌山県災害ボランティアセンター

（経緯）多発する災害に対して

全国的に「被災者中心の災害ボランティアセンターのあり方」や「災害時にも、ボランティアが活動することの価値」等についての議論が活発化

被災地の希望に即座に対応するため、**広域的視点での支援体制が必要**
多くのボランティアや関係団体等が円滑に効果的に被災者支援を行える仕組み

関係団体間が**日常的な連携が無い中で、非常時に確実に連携できるか課題**

常時対応に向けて、話し合いの積み重ね（「防災とボランティア」連絡会議）

和歌山県3課（総合防災課 NPO協働推進課、福祉保健総務課）とのワーキングや、防災とボランティア活動支援関係団体・機関（和歌山大学防災研究教育プロジェクト、日本赤十字社、県NPOサポートセンター、日本防災士会、紀州梅の郷救助隊、ボーイスカウト連盟、YMCA、地域防災ボランティアリーダー会等）との連絡会議を重ねた。

県地域防災計画への位置付け

和歌山県地域防災計画（基本計画編並びに地震・津波災害対策計画編）」が修正され、**現地支援、広域調整、被災者支援の役割を果たすため、平常時から常時の対応強化を図れるよう「和歌山県災害ボランティアセンター」の常設化が計画に明記された。**

ボランティア、NPO、関係団体、行政等が連携し、ネットワークづくりを進めることで、平常時から被害を減らす活動を促進し、災害時においても、ボランティア活動がより効果的に行われるよう支援体制・環境を整備し、誰もが安心・安全に暮らし続けることができる地域づくりを応援します。

構成：協力団体 39 団体 (2021(令和3)年3月1日現在)

<運営会議委員> 日本防災士会和歌山県支部

特定非営利活動法人わかやまNPOセンター

紀州梅の郷救助隊

和歌山県環境生活部県民局長 (和歌山県選任)

和歌山県社会福祉協議会常務理事 (センター長)

和歌山県社会福祉協議会事務局長 (副センター長)

<協定締結団体> ライオンズクラブ国際協会335-B地区 (2019.2.6)

日本労働組合総連合会和歌山県連合会 (2019.5.16)

和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター (2021.3.10)



資機材ストックヤード
が
県内に10ヶ所以上

和歌山大学や
和歌山県キャンプ
協会も参加

個人ボランティ
ア登録制度も

和歌山県災害ボランティアセンター協力団体

和歌山県環境生活部 県民生活課

和歌山県防災企画課

和歌山県福祉保健総務課

和歌山県教育庁生涯学習課

和歌山県教育庁県立学校教育課

和歌山県教育庁健康体育課

和歌山県ボランティア連絡協議会

日本防災士会和歌山県支部（*）

日本赤十字社和歌山県支部

和歌山県理学療法士協会

和歌山県柔道整復師会

日本青年会議所近畿地区和歌山ブロック協議会

ボーイスカウト和歌山連盟

和歌山県BBS連盟

和歌山大学災害科学教育研究センター

和歌山YMCA

和歌山レスキューサポートバイクネットワーク

特定非営利活動法人わかやまNPOセンター（*）

ライオンズクラブ国際協会335-B地区

紀州梅の郷救助隊（*）

紀の川市福祉防災ボランティア会

災害救援ボランティアチーム新宮

和歌山県民生委員児童委員協議会

和歌山県国際交流センター

ガールスカウト和歌山県連盟

和歌山県商工会議所連合会

和歌山県経営者協会

和歌山経済同友会

和歌山県商工会連合会

和歌山県中小企業団体中央会

和歌山県中小企業家同友会

日本労働組合総連合会和歌山県連合会

和歌山県農業協同組合中央会

和歌山県生活協同組合連合会

WBS和歌山放送

テレビ和歌山

和歌山県キャンプ協会

和歌山退職者連合

社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会

39団体（順不同）
（*）は幹事団体

災害ボランティアセンター 中核スタッフ養成研修

令和3年1月30日（土）10:00～15:00

・県民交流プラザ和歌山ビッグ愛（ハイブリッド）

参加：90名

- プログラム
- 基調講話「災害VC中核者としてのスタンス」
 - パネルディスカッション「経験の可視化～仲間に伝えたいこと」
 - 意見交換1「中核者の役割と課題について」
 - 意見交換2「コロナ禍での拠点運営について」

協力団体も
参加可能

広域・同時多発 災害対応訓練

令和3年2月20日（土）9:00～12:00

① 海南市災害ボランティアセンター

② 高野町災害ボランティアセンター

③ 和歌山大学災害ボランティアステーション

④ 県災害ボランティアセンター（訓練本部）

参加：120名

- プログラム
- 災害ボランティアセンター設置・運営シミュレーション
ロールプレイング（役割交替）
運営体制・導線、役割や機能等の検証
 - オンライン配信、現地状況報告、ミーティング・情報共有

県社会福祉協議会から価値共創研究員が着任しました

紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus

お知らせ

2020年8月12日

2020年8月7日、和歌山県社会福祉協議会から価値共創研究員として、南出考さんが着任されました。



(▲学長から手渡された辞令を手にする南出さん(左から2人目))



Key Person

南出考氏(コオさん)

和歌山県社会福祉協議会・県災害ボランティアセンター所長

あのとき和歌山大学生はどう動いたか

2011.3.11 東日本大震災 発生

和大的災害ボランティアの動きは、串本町出身の2名の大学院生(当時)と1名の学部生によって始まった

「串本もいつ被災するかわからない」
彼らを動かしたのは、他人事とは思えない危機感

大学に思いを訴え、組織を動かし、災害ボランティアの有志を募り、「ボランティアバス」の運行を実現した

2011/08/23

大学は、4年間で東北に5回のボランティアバスを運行

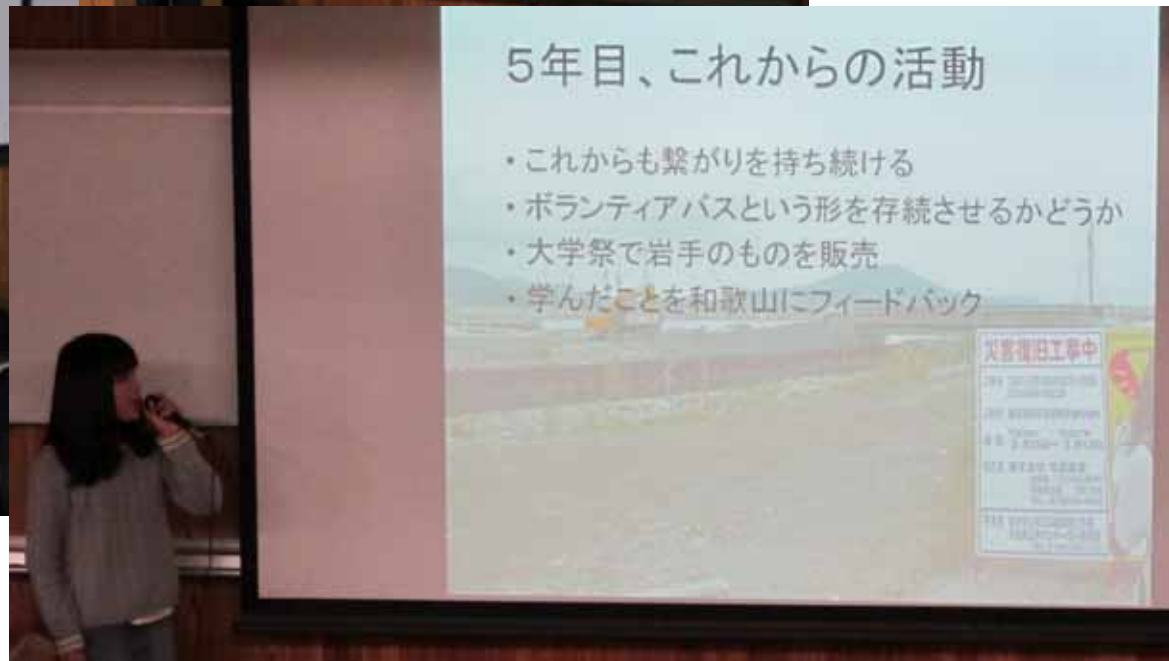
1年目	H23年8月	陸前高田市		
	第1便	5日間	学生22名	教職員2名の計24名
	第2便	5日間	学生23名	教職員6名の計29名
2年目	H24年8月	5日間 陸前高田市	学生25名	・教職員4名

3年目に、被災地ではボランティア募集終了。
しかし、学生の熱意は途切れずさらにボラバスは続いた

3年目	H25年8月	5日間 陸前高田市・山田町	学生18名	教職員3名
4年目	H26年8月	5日間 陸前高田市・山田町	学生13名	教職員3名

参加学生 のべ101名

学内・学外で 何度も報告会をくりかえした



あのとき和歌山大学生はどう動いたか

2011.9.4 紀伊半島大水害 発生

東日本大震災から半年後、東北ボランティアからわずか半月後、地元和歌山に、大規模災害が発生した

前月の東北ボラバス参加者たちの多くは
“自分たちにできること” をすぐに考えはじめた

学生団体FORWARDと教職員の有志が、紀南各地を回り
情報を集めた

さらには、ボランティア駐留拠点となる民家を無償で借り
受けるまで、学生たちの力で成し遂げた

大氾濫をおこした熊野川









新宮市災害ボランティアセンター熊野川サテライトの開設補助 / 日足地区でのニーズ調査 / 被災家屋の清掃等



9月6日より 学生と職員有志の先遣隊がいち早く現地入り

* 家屋所有者の許可を得て撮影しました



有志による先遣調査、拠点整備、およびボランティア活動

- 平成23年9月上旬～

大学によるボランティアバス運行等

- 第1便 9/27 日帰り 学生14名 教職員3名
- 第2便 9/29 日帰り 学生14名 教職員5名
- 第3便予定 希望者 学生16名 教職員4名 (雨天中止) (中止回 36名を含む)
- 第4～6便予定 希望者 学生20名 教職員4名 (VCの募集終了のため中止)
- 聞き取り調査 12月 学生14名

参加学生

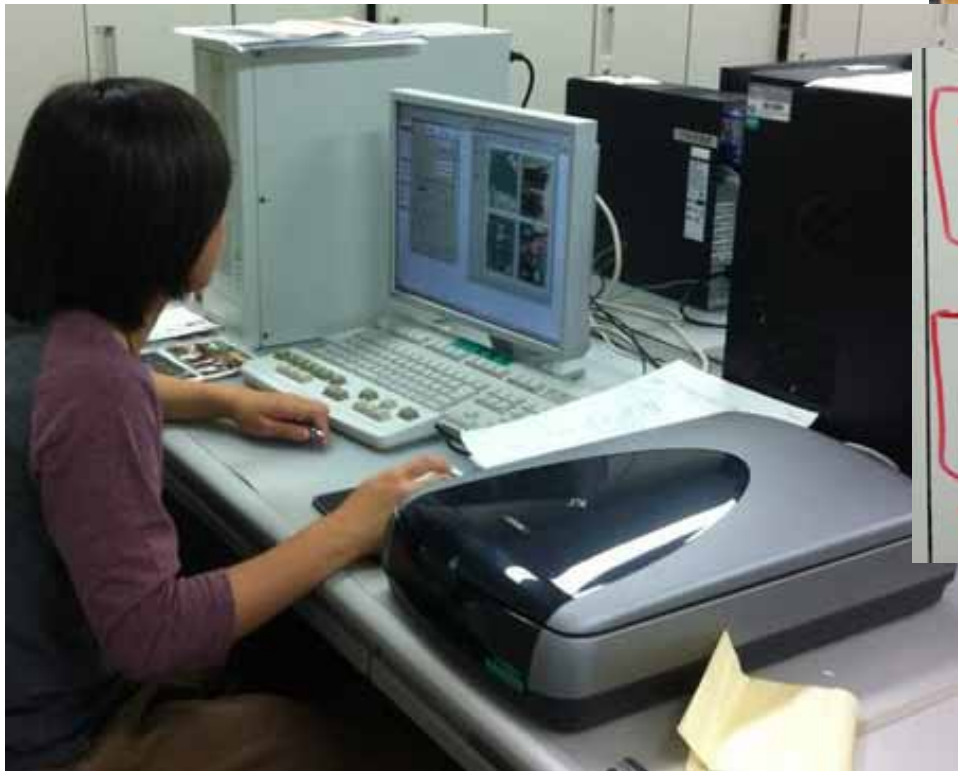
のべ78名

(中止回 36名を含む)

写真修復ボランティア (FORWARDおよび有志)

- 平成23年9月上旬～平成24年3月末

泥を落としたアルバムをスキャニング
写真編集ソフトで修復・加工
プリントとCDに焼いて被災者に返却



お返しできた方
4/60名様
4/23

補正済
21/265冊
1/16

* 概数です。



紀伊半島大水害 写真修復ボランティア
2011年9月～2012年3月末まで活動

和歌山大学 災害ボランティアステーション



「むすぼら」は、和歌山大学災害ボランティアステーションの愛称です。地域に生まれ、地域のお役に立ち、地域に笑顔を増やす人づくりを目指しています。

活動理念

日頃から災害を「自分ゴト」と捉える

現場で学ぶ・被災者にかかわる

地元のピンチに立ち上がる

メンバーになるとどうなるの？

メンバー登録していただくと、むすぼらからの情報をお届けしたり、あなたからの「やりたい」「なりたい」をお聞きしたりします。みなさんのアイデアや行動力で、楽しいイベントや有意義な企画を形にしていきます。

設立から3ヶ月で 登録者 65人 (学生:55人/教職員:10人)

➤ 企画調整力を身につけて「やりたい」をかたちに！

【課題】

- 学生の**主体性・自主性**をもっと高めたい(今週から通学再開)
- 地元発災時に**大学全体(他部局)**が災害VCに取組めるか？
- 地域支援に関して**市町社協との連携 / 市行政との連携**

知識とスキルで 生きる力を蓄える

企画調整力
を磨こう

何気ない日常の中から備えは始まります。知識とスキルを蓄える楽しい学びの場を一緒に作ろう。

平常時

例えばこんなことができますよ

災害シミュレーションゲーム体験
避難所運営ゲーム体験

防災食の試作・開発
防災キャンプ体験

セミナー・ワークショップの企画
お役立ちスキルや資格の講習 などなど。

むすばら で チャレンジできること

「むすばら」は地域と共に、防災・減災・復旧・復興に強い人づくりに取り組みます。そのための活動例をご紹介します。

寄りそい力
を上げよう

復旧・復興ボランティア

わたしたちを育んでくれる地域のピンチに立ち上がり、復旧・復興に力を発揮しよう。

地元発災時

例えばこんなことができますよ

災害ボランティア活動
災害VC*運営補助
地域のニーズ調査

被災児童の学習支援・遊び場づくり
被災者の生活応援
話し相手・お茶飲み相手
炊き出し

被災児童の学習支援・遊び場づくり
被災者の生活応援
話し相手・お茶飲み相手
農家や店舗などの業務再建支援
福祉施設などの事業再建支援

などなど。

*VC=ボランティアセンター

遠隔地発災時

被災地への
想像力を
高めよう

災害ボランティア & 後方支援

遠い空の下でつらく悲しい被害にあっている人に、ここからできる支援があります。

例えばこんなことができますよ

災害ボランティアバス運行

ボランティアを支える後方支援
義援金・支援金の募金活動
支援物資募集活動

遠隔からの災害VC*運営支援
ITを使った遠隔からの情報発信支援
などなど。

できること
一緒に創って
広げていきましょう



ご清聴ありがとうございました



2021年3月11日 むすぼら発足記念 アシスト瓦づくり